

「とやまD'DAYS」は、「会うことで生まれるデザイン」をキーメッセージにしたセミナーや体験ツアーなどからなる総合的なデザインイベント。第3回目となる今回のテーマは「Sensibility－感性の時代」。予測困難な時代のなか、私たち一人ひとりが羅針盤としての「感性」を育てることの重要性を、そのメッセージを体現するゲストスピーカーの話や最先端のバーチャルリアリティ体験などから探りました。



分野を超えてデザインにかかわる人材が交流する場 「とやまD'DAYS 2020」

》 常識を再考する必要性

もの、インフラなど解決すべき「問題」が自明だった時代は、問題に対する「解決策」を提示することがものづくりの価値の源泉でした。安全で快適で便利にするという目的の達成に邁進し一定の成果に達した現代、さまざまな場で同質化や硬直化が起きています。さらに人工知能に代替される領域の拡大も加わり、「人間らしい」「よい暮らし」「よい社会」がどういふものかわからなくなってきています。

人それぞれが「ありたい姿」を思い描き、それが現状と一致しているかどうか、現状を解決する意味があるか。ありたい姿を仮想的に考えることから始め、問題を再定義していくことがここから先のクリエイションに携わる人たちに求められています。

》 コミュニケーションが広げるデザインの領域

新しいことや挑戦的なことを始める時に、専門領域のプロフェッショナルが最高のパフォーマンスを発揮できるチーム作りがキーポイントです。例えば、プロジェクトのプロセスにおいてテクノロジーは開発スピードを促進する推進力、アートは発想や視点を広げる飛躍力として、領域を超えた共有や刺激、フィードバックを取り込むことです。専門領域の敷居を下げてコミュニケーションを通じて視野を全方位に向ける、そして総合的な力でユニークなプロジェクトを作っていくことに大きな可能性があるでしょう。

会 期： 2020年9月4日～6日

◎セミナー

「私たちが感じる、新しい世界」

藤井直敬、クワクポリョウタ

「経営におけるアートとサイエンスのリバランス」
山口周

「アートとデザイン」

ミヤケマイ、川原隆邦、吉田真也

「テクノロジーとデザイン」

松山真也、平瀬謙太郎、吉泉聡

◎バーチャルリアリティ体験・ものづくり体験

アート作品「Forest」

藤井直敬、GRINDER-MAN、evala

株式会社能作 錫の鑄造体験